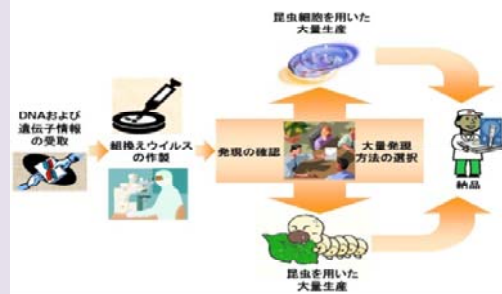


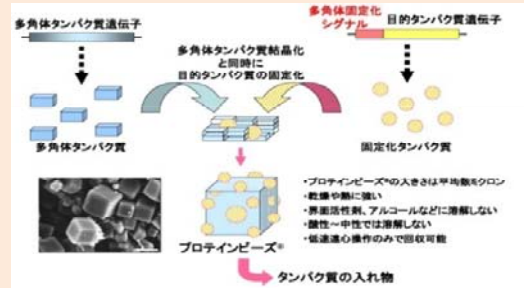
# バキュロウイルスによるカプセル化タンパク質発現 (株式会社プロテインクリスタル)

## NEDOプロジェクトの技術成果

ヒト完全長cDNAによってコードされたタンパク質のN末端及びC末端に固定化シグナルを持つものとC末端に固定化シグナルを持つものについて多角体への固定化(カプセル化)を行った。固定化タンパク質の機能評価を行い、細胞増殖因子FGF2では、フリーな状態と同様の活性を示すことを確認した。



## プロジェクト終了後の実用化状況



- ・製品名: LIFプロテインビーズ
- ・開発した技術名: 固定化タンパク質の機能解析
- ・上市時期: 2011年10月
- ・製品のアピールポイント  
細胞増殖因子をカイコ細胞質多角体病ウイルスの多角体に固定化することで細胞増殖因子(例えばFGF2, FGF7, EGF, LIFなど)の安定化と徐放化が可能となりました。

## 将来期待される 経済的・社会的効果

ヒト完全長cDNA、ヒトゲノムDNA塩基配列情報等を活用して、タンパク質の機能解析のための技術開発と、その機能解析を進め、生物情報基盤の整備と解析装置の開発し、ヒトの生命活動を担うタンパク質の機能の解明と活用を図る。

- ・プロジェクト名: タンパク質機能解析・活用プロジェクト
- ・プロジェクト担当部: バイオテクノロジー・医療技術開発部
- ・実施期間: 2000～2005年度

### プロジェクト概要

ヒト完全長cDNA、ヒトゲノムDNA塩基配列情報等を活用して、タンパク質の機能解析のための技術開発と、その機能解析を進め、生物情報基盤の整備と解析装置の開発を行う。また、従来困難であった弱いタンパク質相互作用、siRNAを用いたタンパク質機能解析技術の開発も行う。

### ・実用化に際してNEDOプロジェクトが役だった点

技術力のポジションが上がった。技術的課題の克服、開発のスピードアップ、共同研究による技術の獲得、人材育成は当初の期待を遙かに上回った。

### ・標準化活動等

技術標準化の促進は当初の期待を上回った。